

地域連携WEBセミナーに関わって

当院は大学病院ということもあり、医師の異動が常に多いことから、新しく赴任してきた医師を地域の住民や医療関係者に紹介する機会を大事にしています。そこで、2021年1月から、医療福祉支援センター（地域連携室）や診療情報管理室などの若手スタッフが中心となり、新任の医師から自身の紹介を兼ねて地域の医療関係者に向けオンラインでの教育情報配信『浜松医科大学地域連携WEBセミナー』を始めました。開催までの背景には2020年初頭に新型コロナウイルス感染症が蔓延し、病院にかかる患者数が減ったことと今までの集合形式での講演や研修会等の開催が制限されたことがあります。

私は医療福祉支援センターでMSWとして勤務4年目となりますが、他部門の若手同年代の職員と協働する機会はこれまであまりなく、今回の企画を通して様々なことを学ぶ機会になりました。

最初、院内の有志が集まって行っている若手職員会の中で『地域連携WEBセミナー』の企画が立ち上がり、基幹メンバーとして選ばれましたが、正直何をどうすればよいかわかりませんでした。そこで、いろいろと検討し企画を病院の上層部に提案することでようやく開催までこぎつきました。企画の立ち上げではアイデアをただ報告するのではなく、企画を立ち上げるに至った理由を根拠のあるデータから証明して、実施に必要な設備、それに伴う費用などをまとめる必要がありました。これまで相談業務ばかり行ってきたので、企画を一つ通すにも様々な準備が必要で時間がかかることを初めて知りました。自分でもMSWとして新規企画を出す時には、念入りな準備と、必要に応じて他部署の協力も得られるように普段から連携を取っておくことが大事だとわかりました。

また、Zoomを用いたオンライン配信も今回初めて行いました。慣れないIT関連の操作につまずくことがありましたが、診療情報管理室のスタッフに教えてもらいながら何とか一通り覚えることができました。これは、退院支援を行う際に、オンラインで開業医や訪問看護とカンファレンスを行うようになったため、すぐに生かせる技術となり、日常業務以外に勉強する機会があることを実感したところです。また、他部門のスタッフと交流を深めたことによって院内の各部門の仕事内容をより知ることができました。私の部署は患者さんの相談窓口となっているため、予約受付、入院費の支払い、診療情報などそれぞれ専門としている部署の協力を得ながら対応にあたっていますが、そんな時に顔の見える横の関係ができたことも大きな収穫となっています。



『浜松医科大学地域連携WEBセミナー』は早くも半年が過ぎまだまだ細かなミスは目立ちますが少しずつ配信にも慣れてきました。正直なところ企画が立ち上がった当初は地域の医療関係者にどれくらい興味を示してもらえるか心配でしたが、初回から少しずつ視聴者数が増加し、現在では毎回約40名程度の申し込みをいただけるようになりました。今後も多くの方に快適に視聴していただけるようにしていくことと、その中で得た知識やスキル、繋がりを自分の糧にし今後の業務に生かしていけるよう頑張ります。

MSW 鈴木任哉